

Citation: Medeiros LRF, Rosa DD, Bozzetti MC, Rosa MINES, Edelweiss MI, Stein AT, Zelmanowicz A, Ethur AB, Zanini RR. Laparoscopy versus laparotomy for FIGO Stage I ovarian cancer. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2008, Issue 4. Art. No.: CD005344. DOI: 10.1002/14651858.CD005344.pub2.
CRG名: Gynaecological Cancer

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 20 July 2008
Clib issue No.; N/U: 2009 issue 2, -

背景: ここ10年間、早期卵巣腫瘍の外科的摘出のために腹腔鏡下手術がますます一般的なアプローチとなっている。本介入の有用性については依然として不確かである。本レビューは、開腹術との比較で、早期卵巣癌の管理のために腹腔鏡下手術の利益と有害性について利用可能なエビデンスを評価するために施行した。

目的: FIGO卵巣癌I期(Ia期、Ib期、Ic期)の外科的治療に際しての腹腔鏡下手術の利益と有害性を開腹術と比較評価する。

検索戦略: Cochrane Gynaecological Cancer Group trials register、Cochrane Central Register of Controlled Trials(CENTRAL)、コクラン・ライブラリ2007年第2号、MEDLINE(1990年1月～2007年11月)、EMBASE(1990年～2007年11月)、LILACS(1990年～2007年11月)、BIOLOGICAL ABSTRACTS(1990年～2007年11月)、Cancerlit(1990年～2007年11月)を検索し、試験を同定した。関連性のある雑誌の2007年11月以降の前向きハンドサーチに基づき、我々自身の出版物記録(publication archive)も検索した。同定した研究の参考文献リスト、産婦人科癌ハンドブックおよび学会抄録集も入念に調査した。

選択基準: 国際産婦人科連合(FIGO)に従って、組織学的に卵巣癌I期とされた患者を対象とした研究。

早期卵巣癌に対して腹腔鏡下手術を開腹術と比較していた研究は、1990年以降に入手可能であったにすぎない。早期卵巣癌の管理について検討していたランダム化比較試験(RCT)は極少数しか実施されていないことが予想された。従って、既存対照を用いた研究を除く、非ランダム化比較研究、コホート研究および症例対照研究も考慮に入れていた。

データ収集と分析: 研究の質と抽出したデータの質を評価した5名のレビューア(LRM、DDR、MIR、MCB、MIE)が独自にデータを抽出した。抽出したデータには、試験の特性、研究参加者の特性、介入およびアウトカムがあった。非RCTの質はStrengthening the Reporting of Observational Studies in Epidemiology(STROBE)およびNewcastle-Ottawa tool for observational studies(NOS)からの適切な質の評価ツールを用いて評価した。

主な結果: RCTは同定されなかった。3件の観察研究が同定された。

レビューアの結論: 本レビューから、早期卵巣癌の管理のためにルーチンの臨床実地として腹腔鏡下手術の有用性の定量化に役立つエビデンスは見出せなかった。

(監訳 曾根 正好)
翻訳公開日: 09年9月15日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。